

第38回 高速道路の新設等に要する費用の縮減に係る助成に関する委員会

議事概要

1. 日 時 令和4年12月15日(木) 10:00~12:00
2. 場 所 独立行政法人 日本高速道路保有・債務返済機構 会議室
3. 出席者 <<委員>> 清水委員長、中村委員、石田委員、田邊委員、野澤委員、芳賀委員、真下委員
4. 議事概要
高速道路会社より認定申請を受けている4議題の経営努力要件適合性について審議を行った。

[審議事項]

□修繕事業

認定基準 ①ーイ 地権者、関係機関などへの提案及び協議

(議題 1) 流末見直しによる排水構造物の削減

(議題 2) 関係機関との協議による残土処理の見直し

□特定更新事業

認定基準 ①ーイ 地権者、関係機関などへの提案及び協議

(議題 3) トンネルインバート設置工事における半断面掘削から
全断面掘削への変更に伴う工事期間及びコストの縮減

認定基準 ①ーロ 現場特有の状況に対応するための創意工夫

(議題 4) 半断面工法採用による上下線連結路の削減

5. 議事内容

[審議事項]

●議題1について、運用指針に定める経営努力要件に適合すると判断し、会社の貢献度(α)を0.5と決定した。

主な意見等は以下のとおり。

- ・油水分離ますによる対策は十分なものとなっているのか。(委員)
→高速道路からの排水は全て油水分離ますを経て水路に流れるように配置していることから、十分に機能するものであると考える。
- ・当初計画には砂防指定地の護岸改修費を考慮しているのか。(委員)
→護岸改修費については未協議であり対策工の設計を実施していないため考慮していない。
- ・今回設置した油水分離ますの管理区分はどうなるのか。(委員)
→今後協議していくが、油水分離ますはNEXCO管理となる予定。
- ・地元の懸念に対して、相手方にもメリットがある対応策を提案し win-win の関係を構築したことは会社の経営努力がうかがえる取り組みであったといえる。(委員)

●議題2について、運用指針に定める経営努力要件に適合すると判断し、会社の貢献度(α)を0.25と決定した。

主な意見等は以下のとおり。

・どのようにして自治体のため池埋め立て工事の計画を前倒してもらったのか。(委員)

→耐震補強工事では R4 年度に土砂を搬出したかったが、自治体のため池埋め立て工事は R5年度施工予定であった。そこで、堆積土砂の事前処理方法などを自治体に提案するとともに、自治体の費用縮減にもなることを説明し、計画を前倒していただいた。

・自治体がため池を埋め立てる目的は何か。(委員)

→使用しないため池は、防災上の観点から埋め立てて廃止する方針と聞いている。

・相手方にもメリットがある対応策を提案し win-win の関係を構築したことに加え、ため池を早期廃止することにより防災上のリスクを低減出来たことは、会社の経営努力がうかがえる取り組みであったといえる。(委員)

●議題3について、運用指針に定める経営努力要件に適合すると判断し、会社の貢献度(α)を0.5と決定した。

主な意見等は以下のとおり。

・最初から全断面施工で計画はしなかったのはなぜか。(委員)

→全断面施工のための対面通行規制の実施について公安委員会と協議をしたが、当初は交通安全上の観点から許可を得られなかった。その後、検討を進めていく中で既往の技術である移動式コンクリート防護柵を活用すること等により、安全性を確保した施工を提案し、公安委員会の許可が得られ全断面施工が可能となった。

・対面通行規制時に火災等が発生した場合の避難計画等については、どのように考えているのか。(委員)

→避難連絡坑が設置されているため基本的に避難時に活用できるが、工事の段取りの関係などで使用できなかった場合にも備え事前に消防と協議し、近隣の消防署からのアクセス経路を確認し、トンネル前後へ Uターン路を設置することなどにより、速やかに消火活動が開始できることなどを確認した。

・24 時間の監視体制は費用が掛かると思うが、大きなコスト増にはならなかったのか。(委員)

→24 時間の監視体制については監視員1名なので全体の費用と比べるとそこまで大きな額ではない。

・費用縮減と同時に、工事の所要期間が約7年から約3年に短縮できたということは、社会的影響も軽減した大変良い取り組みともいえる。(委員)

●議題4について、運用指針に定める経営努力要件に適合すると判断した。

主な意見等は以下のとおり。

・半断面工法による床版取替が可能であるということをどのように確認したのか。(委員)

→半断面工法は、全国的に床版取替工事を進めているなかで、社会的影響を抑えながら施工する方法として検討を進め、他工事で実証実験等も実施して確立したもの。当該工事では桁の構造等を考慮し、半断面工法による床版取替が可能であることを確認している。

・変更計画では当初計画より工程が短縮されたのか。(委員)

→工程は大きく短縮はされていないが、降雨の影響を受けやすい土工工事を不要としたことにより、工程

遅延リスクは抑えられたと考えている。

・現場特有の状況に対応した創意工夫により費用縮減を実現し、会社の経営努力がうかがえる取り組みであったといえる。(委員)

[その他]

・これまでの審議状況の報告等を行った。

以 上